東近江農業農村振興事務所農産普及課（東近江農業普及指導センター）情報

鋤と鍬（すき くわ）

2022年度　第二号
発行　東近江農業農村振興事務所農産普及課
発行責任者　中山　孝彦

○農業推進係、東部普及指導第一係、同第二係
〒527-8511　東近江市八日市緑町7-23
TEL 0748(22)7727･7728　FAX 0748(22)1234
○西部普及指導係
〒521-1301　近江八幡市安土町大中516
TEL 0748(46)6504　FAX 0748(46)7411
○東近江農産普及課 Facebookページ「ふきゅーとる東近江」（https://www.facebook.com/fecutre）
東近江管内の農村風景や台風情報・緊急を要する情報等をタイムリーに掲載しています
ふきゅーとる
E-mail：ga31@pref.shiga.lg.jp

もくじ

１ページ目：○イチゴ新品種「みおしずく」プレデビュー！
２ページ目：○水田農業の収益性向上について考えましょう
３ページ目：○新たな耕畜連携作物　早生稲WCSと子実用トウモロコシ
４ページ目：○露地電照栽培で小ギクの需要期出荷をめざす
○「滋賀県一楽しいクラブに！」～ 東近江青年農業者クラブ ～

イチゴ新品種「みおしずく」プレデビュー！

滋賀県では、平成28年から５年の歳月をかけて、県で初めてとなるイチゴ新品種を育成しました。令和３年11～12月には名称募集が行われ、県内外から寄せられた7,607件の候補から、「みおしずく」と名付けられました。

現在「みおしずく」の本格生産・販売に向けて、当課では東近江市のイチゴ生産者２名に御協力いただき、実証栽培を実施しています。「みおしずく」は県内で多く栽培されている「章姫」と違い、輸送中に傷みにくい硬さをもち、炭疽病に耐性があります。また、「章姫」よりも生育が旺盛で、この品種に適した栽培管理が求められますが、春からの育苗や栽培支援の結果、本来の品種特性を発揮し、11月下旬から収穫を開始することができました。

今年度はプレデビューとして、一部の量販店で販売されています。

「みおしずく」は写真のように大粒で明るい赤色をしており、フローラルな香りが特徴です。また、適度な酸味により甘さが際立つ味わいです。店頭で見かけた際は、是非御賞味ください。

収穫期を迎えた「みおしずく」（令和4年11月）

「みおしずく」の販売の様子（令和4年12月）

水田農業の収益性向上について考えましょう

米の需要量は、人口や1人当たり消費量の減少などにより低下しています。さらに一昨年からは、新型コロナウイルス感染症の影響により中食・外食向けの販売数量が減少したことから、在庫量も高い水準で推移しています。

このような状況のなか、米の販売価格は低下しており、特に令和3年産の価格は平成26年産に次いで低い状態となっています。令和4年産の価格も上昇幅はわずかとなっています。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和したとしても、米の消費量や在庫状況などから急激な米価の回復は見込めず、厳しい状況がしばらく続くと予想されます。さらに、円安等の影響により肥料や燃油などの資材価格が高騰し、ますます経営を圧迫している状況です。

こうしたことから水稲・麦・大豆を中心とした水田農業経営では、収益の減少に直面され、「今までと同じように給料が支払えない」や「計画的な機械更新や設備投資ができない」などの事態が危惧されます。

○今、これからの水田農業を見直しましょう！

今後、水田農業を営むには、今までと同じように生産を行うのでなく、減少した分の収益を確保する取り組みが必要です。今、「何ができるのか」考え経営を見直しましょう。
表には、主な検討事項を上げています。参考に収益確保に取り組みましょう。

①米づくりの見直し

- 結びつき、売れる見込みのある米の栽培
  契約に基づく栽培や付加価値のつく栽培方法、低コストでも利益のでる米づくり

②水田における栽培品目の検討

- 収益力を強化できる作物の組合せ（ベストミックス）の検討
- 土地利用型以外の園芸品目の導入
  主食用米、麦、大豆、非主食用米（飼料用米等）、園芸作物の最適な割合の検討

③経営の見直し　～コストカット、生産性向上～

- 品目、品種ごとに栽培ほ場を集約化し、作業の効率化と移動作業の短縮
- 修繕費などの機械関連および施設費、適切な在庫管理による材料費の削減、出役計画にもとづく労務費の見直し
- スマート農業機械の導入による生産性の向上

○地域や組織で話し合いを行いましょう！

収益の確保に向けて、　①「飯米や縁故米、契約販売できる米（ＪＡ、集荷業者）はどれだけあるのか？」　②「水稲と麦・大豆・飼料用米などの作付体系はこれでいいか？」「新たに所得を確保できる園芸品目は？」　③「効率的な作業を行うために何が出来るか？」地域での土地利用や集落営農などの組織で話し合いましょう。

新たな耕畜連携作物　早生稲WCSと子実用トウモロコシ

輸入飼料価格が上昇する中、新たな耕畜連携作物として、稲WCSの早生新品種である「つきはやか」と近年注目されている子実用トウモロコシについて紹介します。

（１）稲WCS　早生品種「つきはやか」

県内で利用される稲WCSの品種はこれまで中晩生品種が多く一般水稲と収穫作業が重なっていたことから、令和４年に早生タイプとして販売された新品種「つきはやか」を作期分散の期待を込め導入し、当管内の平坦地と山間地で作付けが行われました。生育状況は下表のとおりです。

収穫された「つきはやか」

表　令和４年度東近江管内の「つきはやか」の生育と収穫量

	移植日	栽植密度	出穂日	収穫日	収穫量
山間地	4月28日	50株/坪	8月1日	8月24日	6.3ロール/10a
平坦地	5月3日	60株/坪	8月1日	8月23日	10ロール/10a

※1ロール＝約300kg
（参考：（社）日本草地協会パンフレットでは約8ロール/10a）

山間地の収穫量の低さは栽植密度が低かったこと等が影響したものと思われ、栽植本数を70株/坪（平坦地は約50～60株/坪）で実施することで適正な収穫量に近づくと思われます。

（２）子実用トウモロコシ（濃厚飼料の主原料）

子実用トウモロコシのメリットは

①茎葉を緑肥とした地力改善

②主食用米に比べ面積当たりの労働時間が少なく、労働生産性が高い

（10a当たりの労働時間　水稲23.8時間　子実用トウモロコシ　1.2時間　中央農試データ）

③輸入飼料価格高騰の影響を受けない

④家畜ふん尿堆肥の還元

汎用コンバイン収穫

今年東近江管内の２か所（東近江市・日野町）で子実用トウモロコシが作付け、収穫されました。県の目標値650kg/10aに対し排水の良いほ場では725kg/10aと十分な収穫量を得られ、当管内でも十分栽培可能なことが証明されました。

近年輸入トウモロコシの価格上昇等の情勢を受け、畜産農家間で国産の子実用トウモロコシに対する関心が高まっています。現栽培者を中心に今後面積拡大の意向もあり、飼料の地産地消が期待されます。

収穫したトウモロコシ子実

稲WCSと子実用トウモロコシは新たな耕畜連携の手段として注目されています。

露地電照栽培で小ギクの需要期出荷をめざす

小ギクは8月のお盆が最大の需要期になりますが、その年の天候で開花が前後し計画出荷が難しい品目です。電照栽培は日長に反応する開花特性を利用して開花調整を行うもので、キクのハウス栽培では一般的な技術ですが露地栽培ではまだ取り組みが少ない状況です。

滋賀県では、花き生産振興の一環として県キク部会と協力して今後専業的にキク栽培に取り組む若手生産者に対し、定期的な研修会を開催しています。東近江地域からも数名が参加され、その中の一人が今年度小ギクの8月盆の需要期出荷を目指し露地電照に取り組みました。今年度は試験的な導入でしたが狙い通りの開花となったことから、来年度は本格導入される予定です。

小ギクの露地電照栽培の様子
（R4.4.18定植直後）

「滋賀県一楽しいクラブに！」～東近江青年農業者クラブ～

東近江青年農業者クラブは、東近江地域の若手農業者や農業法人の従業員など、農業に関わる若者で構成される組織です。現在のクラブ員は20～30代の20名で、水稲・麦・大豆、野菜、花き、果樹、畜産など様々な経営部門のクラブ員が交流し、絆を深めて助け合える関係づくりや、資質向上のために活動しています。

交流会の様子

今年度は「滋賀県一楽しいクラブに！」をスローガンに、新規クラブ員の募集に力を入れて活動しています。10月に開催したクラブ員との交流会では、クラブに興味を持っていただいた方４名の参加があり、トークで盛り上がりました。コロナ禍でZoomやSNSを活用した意見交換がメインとなっていますが、対面での活動が、より「楽しいクラブ」に繋がると考え、今後は徐々に対面での活動を増やしていく予定です。

新規クラブ員募集中！

農業の仲間が欲しい！情報交換がしたい！など、御興味のある方は、当普及指導センターまでお気軽にお問い合わせください。

この印刷物は、グリーン購入法合紙を使用しています。